



南さつま市の取組

玉川大学との交流

— 70代から20代がツアーに参加 —

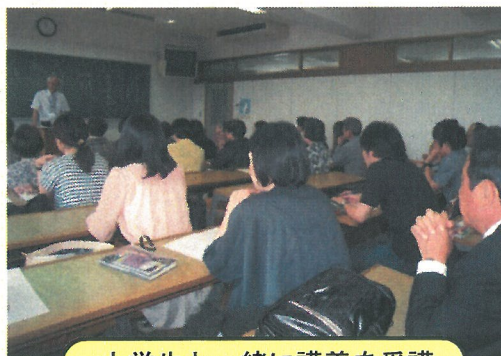
東京都町田市の玉川学園の創始者である小原罔芳先生(本市坊津久志の出身)の遺徳に学ぶことを目的に、南さつま市民大学受講生による修学旅行を実施しました。

市民大学受講生から公募・選考された19人が、2泊3日の日程で学びと交流の輪を広げ、「みんなで夢を紡ぐまち」の一員として新たな目標を設定しました。

また、玉川大学と連携協定を締結する調印式にも参列し、学長から講義受講証を授与された参加者は「人は人によって人になる」という学びの原点を確認しました。

修学旅行の主な日程

- ① 都内見学(国会議事堂・スカイツリー見学)
- ② 南さつま関東ふるさと会との交流
- ③ 玉川大学との包括連携協定調印式参加
- ④ 玉川大学最先端科学施設や小原記念館見学
- ⑤ 教育学部長による講義「教育概論」の受講
- ⑥ 玉川大学学生との交流 (学生食堂の利用)
- ⑦ 東京観光フリータイム



大学生と一緒に講義を受講

修学旅行以降、連携協定により玉川大学水泳部(8月)と演劇部(9月)の学生との交流も実現しました。その他、本市では鹿児島大学との連携協定も締結し、「健康と長寿のまち」の具現化をめざす特別記念講演(鹿児島大学学長)も実施しました。

神話のふるさと 南さつま

— 古事記編纂

1300年を記念して—

本市の笠沙・金峰・加世田等には、神話とゆかりのある史跡が多数あることから「神話のふるさと1300年祭」と企画展「南さつま神話の旅」を開催しました。「1300年祭」のオープニングでは、竹田神社で奉納される小学生による「浦安の舞」が厳かな雰囲気披露され、かごしま維新ふるさと館の顧問福田賢治氏による歴史講演会が行われました。

その後、琵琶演奏や霧島神楽が披露され観客は神話の幻想的な世界を堪能しました。



古式ゆかしき舞を堪能